



『バーチャルとリアル』≠『ウソとホント』

「バーチャルリアリティ」を「仮想現実感」と訳すのは本来の意味から言うとも誤りである。“virtual”のもとの意味は「実質上の、事実上の、実際の」であり「仮想的な、擬似的な」とはむしろ正反対の概念である。「バーチャルリアリティ」とは、多くはインターネットなどにデジタルデータとして存在し、物質としての実体はないが実質上(事実上)本物であるものの性質を指す。例えば「バーチャル図書館」といえば、図書館の建物はなくてもネット上で実際に書籍や文献が入手でき、事実上図書館の役割を果たす存在を意味する。「バーチャル」と「リアル」は対義語ではないし、「虚」と「実」ということではない。

TVゲームなどに熱中するあまり空想の世界と現実の世界の区別がつかなくなるとか、ケータイでプロフにアクセスしているうちに現実世界の犯罪に巻き込まれることがあるとか、危険性を指摘する声がある。しかし、これは、バーチャル世界が仮想的で超現実的だからなのではなく、バーチャル世界のもつ本質性を理解せずブラックボックスとして利用したり、現実世界と同様に氾濫するウソや悪意ある情報を、手軽さゆえに無防備に信じてしまったりするところに問題があるのである。リアル(現実)世界にウソとホントがあるように、バーチャル世界にもウソもホントもあり、リアル世界以上にストレートに本質的なバーチャル世界においては、そのバーチャル性(本質性)を見抜く力がより強く求められるということだ。

本質(ホント)を見抜くことの大切さは、インターネットなどのデジタル世界に限らない。現に「納豆を食べるとやせる」「血液型で性格がわかる」など科学的にまったく根拠のないウソを信じてしまう人がなんと多いとか。食の安全も人の健康も情報の信憑性を評価できなくては達せられない。学問も同じだ。鈴木光太郎著『オオカミ少女はいなかった 心理学の神話をめぐる冒険』新曜社刊(2008)によれば、オオカミに育てられた「アマラとカマラ」の話は、科学的に検証すると大部分が捏造(ウソ)である。「アマラとカマラ」の逸話は、人間にとって教育が重要であることを示す事例として教育心理学など大学の講義でも繰り返し教えられてきたものだ。

学問の世界で、ウソがホントのように信じられている例は他にもある。もと名古屋文理大学教授の栗原弘先生は「古代日本は母系制だった」とする通説に対し、根拠となった高群逸枝の女性史研究に意図的誤謬があることを示した。私も、名古屋大学での研究で、立体映像を人が見るときに目のピントの調節が

起きていることを実測で示し、バーチャルリアリティ学会などで何度も発表してきたが、多くの教科書に記述されている「立体映像では調節(目のピント)は画面位置に固定され輻輳(寄り目の視線の交差点)とは一致しない」という通説を信じている研究者はまだ多い。

研究者でも真実を見抜くのは難しいのだから一般人や学生ではなおさらだ。情報を制約なく入手できる環境と、得られた情報を科学的な目で評価できる力が求められる。情報環境の面では、幸い、名古屋文理大学には図書情報センターがあり、学内でインターネットや LAN が自由に利用できる。科学的な研究の面でも、名古屋文理大学では、例えば、携帯電話のデジカメで料理の写真を撮ってメールで送れば管理栄養士の食事管理指導が受けられるシステムなど「食と情報」の力を活かした特色ある研究がいくつも行われている。

大学の話になったので、ついでに書くが、大学にもこれまで以上に本質が求められる時代になってきた。講義室に来て授業の出席をカウントしてもらうのではなく、そこで何を学びどんな知識や技術を身につけるかが本質である。インターネット上のバーチャル大学でも実際に知識が得られて卒業資格が得られれば、事実上ホントの「大学」なのである。名古屋文理大学は、バーチャル世界の研究・構築・活用もできる環境が整ったリアル大学だ。ここで、学生は実際に手を使った実習や体験を通して専門技術と知識を身につける。また、本質を見抜くための科学リテラシーと、情報を批判的に評価できるメディアリテラシーを養う。もちろんこれらは、学ぶ学生だけでなく、教える教員・サポートする職員いずれにも求められる。

バーチャルであれリアルであれ、ホントを選びウソにだまされないことが肝要なのである。

目次

『バーチャルとリアル』≠『ウソとホント』	1
本を読む	2
本の紹介	3
ひらめきの導火線 トヨタとノーベル賞	
20 世紀少年	
卒業演習紹介	4
健康栄養学科	
フードビジネス学科	5
卒業研究紹介	6
情報メディア学科	
演習紹介	7
フードビジネス特別演習 I	
図書情報センターから	8

本を読もう



A「あなたがこれまで読んだ本のなかで、感銘を受けたものがあれば教えてください。」

B「・・・」(1 分間の沈黙)

これはある面接会場で、筆者が実際に見聞したことである。A は面接者、B は受験者である。A の質問はマニュアルどおりであって、受験者の資質を見るためのきまり文句である。どんな本に関心をもっているかで、その人が分かるからである。B は緊張していたのかもしれないが、多分これといって本など読んだことがなかったのであろう。いずれにせよ、これでは面接は成立しない。

いまの学生はほとんど本を読まない、とよくいわれる。本を読むなんて面倒くさい。かりに読むとしてもマンガ本以外は絶対に自分では買わない。知識や情報ならテレビやネットで詳しく知ることができる(「その時歴史が動いた」「ためしてガッテン」など)。分からないことがあるとインターネットの検索で調べれば済むし、それがケータイで簡単にできる。わざわざ図書館へ行って調べるまでもない。こういう習慣がついてしまっている学生が多いのではないだろうか。その結果、受験者Bのようになるわけである。それを知らない面接者Aも、うかつだったことになる。

しかし、これから社会に出る学生はしっかり本を読んでおくべきだと筆者は思っている。テレビやネットもその情報源は書物やデータである。専門書などを読みかじって編集している。それは一つの解釈であって、必ずしも学問的に正確なものではない。それに反して、本を読むとは知識の源泉に自分で直接触れることである。他人の主観を介さないのが正確である。注意深く読むので受け身にならない。集中力を養うこともできる。自分で赤線を入れた本は、あとあとまで記憶に残るだろう。手あかがついた書物を身近に沢山置いておくことが、知識の蓄積になる。世の中は読書だけでことが済むとは思われない。だが、本に親しんでいる人とそうでない人との差は、20 才、30 才、40 才と年齢をへるにしたがって歴然としてくる。F・バーコンが「知は力なり」といったように、まさに書物は強力な知的道具であり、それは力となる。本を読むのは面接試験のためではない。自分のためである。自分の将来への投資である。面倒くさらずに本を読もう。

ではどんな本を読むか。それは自分の興味や専門によってさまざまだろう。ともかく手当たりしだい多読するとよい。高い本は買わなくても図書館にある。しかし、読んでみたい本や座右に置きたい本は身銭を切っても買うべきである。最近では廉価な文庫や新書版の良書が多く出ている。電子辞書も知の道具として便利である。

参考までに、筆者が授業で紹介した図書のなかで、やさしい教養書として役立つものをいくつか挙げておこう。文学関係の作品として、夏目漱石『こころ』、『三四郎』、『門』、倉田百三『愛と認識との出発』(以上、岩波文庫)。哲学・倫理関係では、藤田正勝『西田幾多郎』(岩波新書)、ヨースタイン・ゴルデル『ソフィーの世界』(NHK 出版)、加藤尚武『現代倫理学入門』(講談社学術文庫)、今井道夫・香川知晶編『バイオエシックス入門』(東信堂)。その他として、船木亨『デジタルメディア時代の《方法序説》』(ナカニシヤ出版)、佐々木正人『アフォーダンス入門』、佐藤信夫『レトリック感覚』、中村桂子『生命科学』(以上、講談社学術文庫)。これらの本は人間について実に多くのことを教えてくれる。

将来、面接会場で「大学で専門以外に何を勉強したか？」ときかれたら、「教養書を沢山読んだ。とくに〇〇〇に感銘を受けた」と胸を張って言えるようにしたいものである。

山田 弘明：PR学科 教授



本の紹介

『ひらめきの導火線 トヨタとノーベル賞』



茂木健一郎（もぎ けんいちろう） 著

PHP 研究所（PHP 新書）ISBN:978-4569701127 定価 714 円（税込）（2008.8）

この本と出会ったとき、ちょうどそのとき読み終えたばかりの本のことばが脳裏をよぎった。
“常識にとらわれない下流大学の卒業生にこそ、勝てるチャンスがある” 山内太地著の「下流大学に入ろう!」（光文社ペーパーバック）のことばだ。その言葉はわたしたち名古屋文理大学の学生にもむけられていた。たしかに、この大学には様々なアイデアをもった人間がいる。“ただ頭がいいだけ”の人間では思いつかないような奇抜なアイデアだって存在しうる。

しかし“単なる非常識”では世間では通用しない。わたしたちはどうしたらよいのだろうか。

そんなとき「ひらめきの導火線」はわたしたちにヒントを与えてくれる。わたしたちがまずしなければいけないことは、実はとても簡単なことであるように思う。ノーベル賞をとれるようなアイデアをもっている人はなかなかいない。しかし、ひとりひとりのアイデアがひとつの線になって、ひとつの大きなイマジネーションとして共有されたとき…、それはわたしたちの想像を超えた大きなものになるだろう。

あなたの中にもまだ多くのアイデアが眠っていないだろうか。学科や大学といった枠にとらわれず、もっと多くの人と話してみることが“それ”を目覚めさせるかもしれない。そうすることが、あなたの、そして名古屋文理大学の可能性を無限に広げるかもしれない

【本の紹介者】 可知秀一：PR 学科 2 年

『20 世紀少年』全 22 巻

浦沢直樹（うらさわ なおき）

小学館（ビッグコミックス）ISBN:978-4091808059 定価 530～550 円(税込)（2000.01～2006.11）

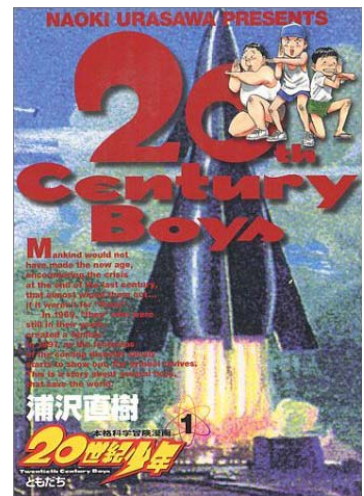
今回、紹介させていただくのはコレ！「20 世紀少年」。図書だよりにしては珍しくマンガです。ですが、「なんだマンガか」、などと侮ってはいけません。なんと、国内では小学館漫画賞（青年一般部門 2002 年）や文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞（2002 年）など、また国外ではヨーロッパ最大の漫画賞、アングレーム国際漫画祭の最優秀長編賞（2004 年）を受賞した作品なのです。さらにこのマンガは、ご存知の方も多いでしょうが 2008 年より全三部作で映画化し、大ヒット作品として注目を浴びており話題性も高く、「今、最も旬」な作品といっても過言ではありません。

さて、肝心の内容ですが、これが面白い。ジャンルは「SF サスペンス」で、ストーリーは主人公「ケンヂ」と仲間たち VS 「謎の黒幕“ともだち”」という構図で進みます。特徴として、いたるところに多くの伏線が張られており、それらに注意しながら「“ともだち”とは誰なのか」を推理していくのが多くの人々を魅了させるところでしょう。また作品コンセプトが「本格科学冒険漫画」となっており、冒険もの特有のワクワク感、そして妙に現実味がわきあがる、科学特有のシリアスな感覚の両方を兼ね備えていて、読者をこの特有の世界観にどんどん引き込んでいきます。さらに舞台となる時代は、昭和中期～現代で、その時代に流行ったものが多く出てきます。例えば「忍者ハットリくん」のお面が出てきたり、大阪万博というその時代の時事ネタを使ったりしています。こういうところで妙なりアル感が出てくるのです。他にも何気ない背景のなかに、「あ、これ知ってる!」っていうものがあるので、そういったものを探するのも 1 つの楽しみ方だと思います。

もちろん前述の映画作品と見比べてみるのもオススメです。映画の特徴として、原作の登場人物にそっくりな人間を CAST として起用しているので、内容などはそっちのけにしても面白い。違和感なく安心して観ていられます。内容も途中までは原作と同じように進みますが、映画版は映画版でオリジナルのラストを迎えるようなので、マンガを最後まで読んでしまっても映画を楽しめるし、逆に映画を見た後でも、映画では語られなかった部分や原作特有のラストなどをマンガで楽しめるようになっていきます。ぜひ両方楽しんでください。

長くなってしまいましたが、なんといっても「百聞は一見にしかず」。とりあえず騙されたと思って読んでみてください。そこにはあなたの忘れていた“20 世紀”があるはずです。

【本の紹介者】 宮川治之：PR 学科 2 年



健康栄養学科

卒業演習紹介

健康栄養学科の学生は1～3年生の間は2クラス(ひとクラスは40人)に分かれて授業を受けますが、4年生になると希望のゼミに所属して、各ゼミ担当教員の指導のもと、少人数で専門的なテーマの卒業演習を行います。卒業演習は講義とは異なり、授業以外の時間の大半を使って行います。また卒業演習では国家試験対策にも取り組みます。これらの演習を通して、単に専門知識を深めるだけでなく、思いやりや自己表現の力を涵養し、知性ある心豊かな人間性を備えた人間として成長してほしいと願っています。

健康栄養学科では、毎年多様で専門的な演習が開講されており、その内容を図書館便り春号で紹介しました。今号では、これまでに紹介されていない4つの卒業演習を紹介します。

■臨床栄養ゼミ 関谷知恵 助教 【臨床栄養研究室】

「症例についてのデータ分析、検討を行い、管理栄養士としての理解を深める」

卒業演習では地域の総合病院の栄養指導、チーム医療における栄養士のかかわり(NST、嚥下、褥瘡)、緩和ケアなど、学生自身で症例についてのテーマを掲げて、食事指導、食事介助、NSTに参加し、それらを分析し、考察を行い管理栄養士としての専門的な知識を習得します。

(例)透析と貧血における食事療法のかかわり、妊娠と生活習慣と栄養管理について、嚥下食と食事介助、NST介入効果について、胃・十二指腸治療経過について、などを行いました。

その他、臨床栄養関連の研究会や勉強会に参加し、知識を習得していただきます。

■調理学ゼミ 犬飼陽子 助教 【調理学研究室】

栄養指導では適切な食事指導が行なわれますが、望ましい献立構成の指導や調理法を示すことで対象者に食事療法の内容を理解してもらうことができます。従って管理栄養士の調理は単においしい料理を作るだけでなく、健康を配慮した食品や料理の組み合わせ、摂取量を料理に生かすことを目標にしています。具体的には、脂質異常症の患者の食事調査から脂質、脂肪酸等の摂取量を調べ、食事摂取基準に示された目安量・目標量になるような献立に変更し、完成した献立を調理実習して料理の構成、調理の手間、外観、味などが受け入れ可能なものになるよう検討しています。

■公衆栄養ゼミ 後藤千穂 助教 【公衆栄養研究室】

現代社会では、食や健康、栄養についての情報が様々なメディアから日々発信されています。食や栄養を通して人々の健康の維持増進にかかわる管理栄養士にとって、必要な情報を入手し、その内容を吟味する能力はますます重要になっています。これに加え、得た情報を正しく、わかり易く伝える技術の習得も必要です。そこで、当ゼミでは「健康・栄養情報の収集と検討」として各自で興味のある健康・栄養に関するテーマを設定して情報を収集し、栄養疫学の手法を用いて検討し、まとめます。さらに、データを読み取る力を養うため、実際の健康や栄養に関する調査データの集計・分析を行うことを予定しています。

■生化学ゼミ 北越香織 助教 【理化学研究室】

「インスリン抵抗性の発症機構解明とその改善に関する研究」

生活習慣病の要因の1つであるインスリン抵抗性について研究を行っています。高脂肪食または高糖質食を用いてインスリン抵抗性ラットを作成し、その発症機構の分子レベルでの解明に取り組んでいます。また様々な食品等をインスリン抵抗性ラットに投与してその改善に関する研究も行っています。

今年度の新4年生は、春休みから研究室に来て、ほぼ毎日管理栄養士国家試験に向けて一生懸命過去問を解いています。合格に向けてのバックアップもきっちり？しています。

※その他開講されているゼミ (これまでの図書館便り春号で紹介しています)

- ・ 栄養学ゼミ (青山頼孝 教授)
- ・ 食品衛生学ゼミ (渡部宏臣 教授)
- ・ 解剖生理学ゼミ (平林義章 教授)
- ・ 食品学ゼミ (市川和昭 教授)
- ・ 生化学ゼミ (竹中晃子 教授)
- ・ 栄養教育ゼミ (辻とみ子 教授)
- ・ 給食経営管理ゼミ (石川豊美 准教授)
- ・ 調理学ゼミ (村上洋子 助教)

フードビジネス学科

卒業演習紹介

平成 20 年度にフードビジネス学科で行われた卒業研究のゼミと主な卒業研究を紹介します。

■清水俊雄ゼミ■

●研究テーマ:特定保健用食品の許可状況 ○豊田葉子、遠藤輝太郎、岡本由紀、大渡千尋

特定保健用食品の機能毎に、従来型、規格基準型、条件付き、リスク低減、再許可型のタイプに分けて、経時的に許可の状況を調査した結果、全体の許可数は増加傾向であるが、再許可型、規格基準型が多く 2007 年以降に新規機能表示・新規成分の許可件数が減少していることが明らかになった。今まで明らかにされていなかった内容であり、下記のテーマと合わせて、臨床栄養協会学術誌に投稿する予定である。

●研究テーマ:特定保健用食品の認知度 ○遠藤輝太郎、○岡本由紀、○大渡千尋、豊田葉子

大学生約 300 人に対するアンケートを実施した結果、認知度は 90%を越えていた。摂取経験、摂取した食品形態、摂取頻度などで男女差が認められ、一般に女性の関心が高い傾向が認められた。新規の機能として開発が望まれる機能は、女性では「肌の健康」、男性では「目の疲れ」・「生体防御」であることが明らかになり、企業が今後開発する方向について一定の知見が得られた。(○が主な実施者)

■関川靖ゼミ■

私の卒業研究は、専門演習において「消費者行動の意思決定研究・・・消費の購買行動の裏側」というテーマで行動の経済学の面から、経済主体が採る経済行動の意思決定について勉強したことを基礎として卒業論文を作成します。この意思決定に関する勉強は、消費者ばかりではなく企業もかかわってきますので、財・サービスの価格決定、ライバル企業との競争・商品開発等などの適切な経営戦略や飲食店開業での留意など、その応用範囲が広いものです。世古真二君の「スーパーマーケット業の展開と展望」というタイトルの卒業論文は、立地論ばかりではなく企業の意思決定と消費者の意思決定も考察して、総合スーパーマーケットとの厳しい競争にある食品スーパーマーケットの生き残りの経営戦略をあらわした秀逸な論文でした。

■中村麻理ゼミ■

当ゼミにおいては、鈴木貴浩さんが「定性情報に基づくメニューコンセプト開発——スガキコシステムズの商品開発を事例に——」というタイトルで卒業研究に取り組みました。外食産業の商品開発プロセスにおけるマーケティングリサーチ部分に焦点をあて、グループインタビューという方法で消費者のニーズを探り、それによって得られたデータから商品コンセプトを発想するという内容です。若年男性をターゲットとした甘味メニューという方向性で 3つのコンセプトを開発し、企業に報告しました。

■山田ゆかりゼミ■

このゼミでは、「食べる」行動および「食を買う・売る」行動を中心に、心理学の視点から研究しています。調査・実験・観察などの方法でデータを収集し、それを分析する過程を重視しています。

平成 20 年度の主な卒業研究を紹介します。

「食料品テレビコマーシャルの分析」(浅見亜弥):約 200 本の食品と飲料のテレビコマーシャルについて、内容、表現の特徴などの分析と印象評価を実施した結果をまとめました。

「アルバイト選択に求められる職場環境の研究」(山田奨):アルバイトをする際に重視されている職場環境(職場要因)について、接客・販売職群と非接客・販売職群との比較検討をしました。

「飲料の色と味の評価に関する研究」(丸尾勇人):飲料の色(色の有無、色と香との一致・不一致)が味の評価に及ぼす影響について実験を行い、結果を分析しました。

「ストレスと食行動」(西尾由佳):ストレスを感じた時の食行動の特徴やストレス緩和に効果があるとされるギャバ食品の認識と摂取について調査を行いました。

卒業研究紹介

去る3月17日、平成20年度の卒業研究の中から優秀な研究として卒業研究奨励賞の推薦を受けた研究に対して、研究者の表彰と賞品の授与式が行われました。卒業研究奨励賞を授賞した14件・15名の研究について、推薦者からのコメントを掲載します。

■ロコミ（サイト）における企業の存在 蟹江 昌裕 大石 将輝（指導教員：井上治子准教授）

本研究は、人々のネット社会に求める中立性の意識をアンケートを用いて明らかにしようとした労作である。ブログやロコミサイトはなぜ中立なメディアとみなされやすいのかという問題設定も社会的に重要な論点を含み、メディアと社会の関係を考える上での一助となる。（推薦者：田川隆博助教）

■学生ボランティアを中心とした不登校問題への取り組み 飯田 安理（指導教員：落合洋文教授）

当論文は、学生ボランティアとして「ホームフレンド in いなざわ」で2年間活動した事例報告と、全国の不登校問題への取り組みについての考察から成る。参与観察を踏まえ、なおかつ冷静な分析を遂行したその内容は当学科では類例が無く、意欲的な佳作である。（推薦者：井上治子准教授）

■パーティクルシステムによる拡張現実について 佐藤 和輝（指導教員：小橋一秀准教授）

モニタ映像へ合成したCG物体に、手で投げるなどの現実とのインタラクションを持たせるシステムを開発した。カメラ画像の解析、パーティクルベースの物理モデルの適用、CGと実画面の合成などマルチメディア技術を駆使した高度なプログラム技術に支えられた研究である。先端的な分野であり、直感的インターフェイスの開発など、今後の発展が期待される。（推薦者：大矢信吾准教授）

■XNAによるキャラクターアクションゲーム開発 村上 佳央（指導教員：小橋一秀准教授）

ゲーム性を持った3Dポリゴンアクションゲームを実際に開発した研究で、実ゲーム機のコントローラに対応したゲーム画面が完成されている。敵キャラAIの実装や先端的な言語C#でのプログラムなどに当人のかなりの努力がうかがえる。（推薦者：大矢信吾准教授）

■音階と音響がもたらす色彩イメージの相関性に関する研究 亀井 誠治（指導教員：佐原理助教）

亀井君は上記のテーマで、研究論文を作成し、さらに、これに基づいた体と音とのインタラクションを持たせる新たなメディアを作品として制作発表した。研究と作品のためのプログラミングによるソフトウェア開発、体験型作品の制作を高度なレベルで実践できたことは、他芸術大学の研究レベルと比較しても優秀である。（推薦者：大矢信吾准教授）

■映像が人間に与える影響とその効果 松岡 瞳（指導教員：佐原理助教）

自作の英文の詩とバラのイラストをプロジェクターによって壁一面に投影するアート作品の展示。使用した素材全てが彼女のオリジナルで、プロジェクターの使い方も効果的であり一際目を引いた。（推薦者：本多一彦教授・大矢信吾准教授）

■光による情報の一考察 Heart Beat - 乳幼児突然死症候群にもとづいて - 熊沢 彩葉（指導教員：佐原理助教）

聴診器を使用した心音マイクにより心臓の鼓動を光でモニタリングすることで、命との繋がりを表現するアート作品。医療器具を通して生命とアートを繋ぎ、アートを乳幼児突然死予防のため医療に役立てたいと言う斬新な発想に基づくところが大変興味深い。（推薦者：本多一彦教授・大矢信吾准教授）

■シューティングゲームにおける攻撃手段の考察 林 達也（指導教員：田近一郎准教授）

シューティングゲームにおけるキャラクタと攻撃弾の接触判断は難しいアルゴリズムである。特に、キャラクタが回転した場合、接触判断するポイントの配置と数は重要なポイントである。林君の研究は、独自の動的判断位置の検討であり、内容的に価値がある。（推薦者：森博教授）

■Flashアプリケーションの開発と応用の可能性 加藤 正史（指導教員：長谷川聡教授）

高度なプログラム技術に支えられたユニークで有用性の高いFlashを学会、卒業研究を通して多数発表している。携帯電話・Webなど様々なデバイスでのFlashの魅力と有用性が伝わる研究であり、優れた研究として紹介するに値する。（推薦者：小橋一秀准教授）

■ケータイメールによるスケジュール管理システムの開発 丸田 洋輔（指導教員：長谷川聡教授）

スケジュール管理サービスを、メールによる実用性が高く安定運用の見込めるシステムとして提供している。システム開発からサーバ運用までの全工程に関して相当の努力が感じられる。学会発表など研究活動としても十分な質を持つものと認める。（推薦者：小橋一秀准教授）

■ケータイで利用する多言語医療問診システムの開発 杉田 奈未穂（指導教員：長谷川聡教授）

多言語対応サービスという高いニーズに対して、文字の画像化という現実的で実システムとして利用可能な解決手段を提供した。画面設計から問診DBの構築など相当の努力が感じられる。学会発表などの研究活動や今後の発展性を持った研究として認める。（推薦者：小橋一秀准教授）

■「メディアとは何か？」をモチーフにしたPV作成（大学紹介ビデオ制作による検討） 山田 美穂（指導教員：森博教授）

「メディアとは何か？」という抽象度の高いコンセプトをわかりやすいマルチメディア作品として表現することは挑戦的な課題である。山田さんは、計5回にわたるPVの大幅なスクラップ&ビルドを通して課題に対する問題意識を深め、最終的に完成度の高い大学紹介PVの制作にいたっている。（推薦者：田近一郎准教授）

■MIDIによるオーケストレーション 曲名「戦いの夜」 鈴木 達也（指導教員：吉田友敬准教授）

本学生は、1年次より指導教員の個人指導を受け、4年間にわたって、音楽制作の技術を著しく伸ばした。他のゼミ生のサポートや作品の仕上げ作業などに率先して取り組み、ゼミへの貢献度が非常に高い学生である。ゼミコンサートでは、実行委員長、ステージマネージャーを務めその任務を十分に果たした。（推薦者：山住富也教授）

■旅館経営の曲がり角 坂谷 祥恵（指導教員：吉田洋教授）

本研究はなぜ旅館が衰退したかというオリジナリティあふれる問題設定に基づく研究である。旅館業界の価格競争の激化による品質低下、似たような旅館の乱立による無個性化などの構造的課題に言及した上で、食の分化、個性化などの解決策を提示しているところが秀でており、意欲的かつよくまとめられた秀作である。（推薦者：田川隆博助教）



演習 紹介

■ フードビジネス学科 フードビジネス特別演習Ⅰ

フードビジネス学科フレッシュマンセミナー担当教員

フードビジネス学科では平成19年度から稲沢青年会議所のみなさんと一緒に田んぼアートに取り組んでいます。平成20年度はこの活動が稲沢市制50周年記念協賛事業に採択されました。稲沢市船橋町の稲沢市消防署本部近くの2反の田んぼに学生たちが大きく描いたのは、稲沢市のマスコットキャラクター「いなっピー」です。

フードビジネス学科 『田んぼアート 2008』 稲沢市制50周年記念協賛事業に採択 *Welcaru Inazawa* ～植える刈る稲沢～



学生たちは、裸足で水田の中を移動しながらの田植え作業にも、赤米と黒米を別々に鎌で丁寧に取り、運び、縄で縛る稲刈り作業にも元気に楽しく取り組み、この授業を通して貴重な体験をしました。収穫したもち米は2009年度の稲友祭でつきます。お楽しみに！

主な活動

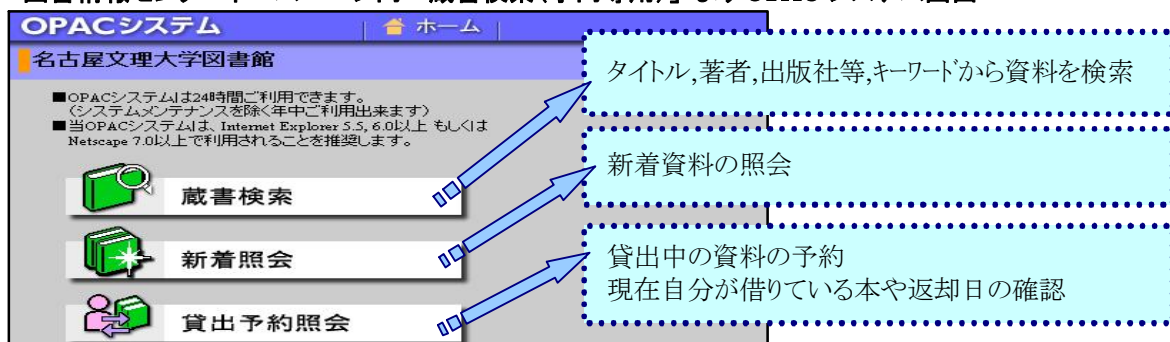
5月17日	田植え
7月～9月	田んぼアート見学 (いなっピーの姿がはっきりしてくるのがわかりました)
10月4日	草取り
10月25-26日	稲友祭(2007年秋に収穫したもち米で餅つきと餅の販売をしました)
11月2日	稲刈り

図書館情報センターから

＊＊OPAC システムのご案内＊＊

図書館には、OPAC という蔵書検索システムがあることをご存知ですか？図書館を利用している、OPAC を利用している人は、まだまだ少ないのではないのでしょうか。本学では、図書館内の専用端末はもちろんのこと、学内のネットワークを利用できるどのパソコンからでも OPAC へ接続することができます。まずは、図書館ホームページを閲覧してみてください。OPAC の利用方法の詳細や開館日、その他いろいろな情報を知ることができると思います。

■図書館情報センターホームページ内「蔵書検索(学内専用)」より OPAC システム画面へ



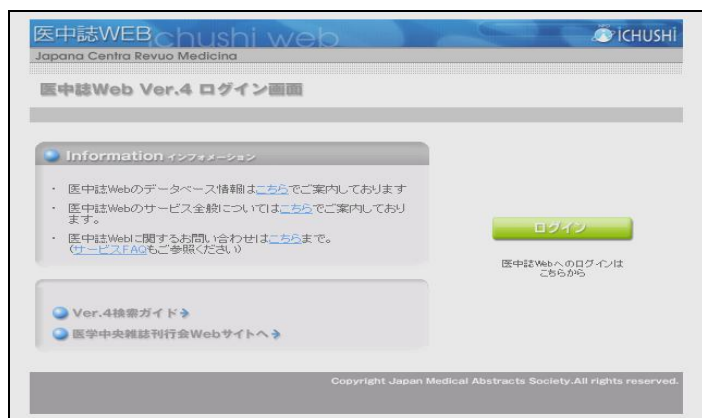
The screenshot shows the OPAC system interface for Nagoya University of Arts and Sciences. It includes a navigation bar with 'OPACシステム' and 'ホーム'. The main content area has three buttons: '蔵書検索' (Book Search), '新着照会' (New Arrivals), and '貸出予約照会' (Loan/Reservation). To the right, three blue dashed boxes with arrows point to these buttons, containing the following text:

- タイトル,著者,出版社等,キーワードから資料を検索
- 新着資料の照会
- 貸出中の資料の予約
現在自分が借りている本や返却日の確認

＊＊医学中央雑誌(医中誌)Web について＊＊

「医中誌 Web」とは、特定非営利活動法人 医学中央雑誌刊行会が作成する国内医学論文情報のインターネット検索サービスで、国内発行の医学・薬学・歯学及び関連分野の定期刊行物、のべ約 5,000 誌から収録した約 630 万件の論文情報を検索することが出来ます。

■図書館情報センターホームページ内「医中誌 Web 版(稲沢 CP 学内専用)」よりログイン画面へ



The screenshot shows the login page for Ichushi Web. It features a header with '医中誌WEB chushi web' and 'Japania Centra Revuo Medicina'. The main content area has a 'ログイン画面' (Login Screen) section with a 'ログイン' button. Below the button, it says '医中誌Webへのログインはこちらから' (Login to Ichushi Web from here). There is also an 'Information' section with links to database information, service details, and a FAQ. At the bottom, there is a copyright notice: 'Copyright Japan Medical Abstracts Society. All rights reserved.'

医中誌Webを利用するには、「ユーザIDとパスワード」が必要です。利用したい方は、図書館情報センターか健康栄養学科教員にお尋ねください。

平成 21 年 4 月

編集：名古屋文理大学図書館情報委員会

発行：名古屋文理大学図書館情報センター

〒492-8520 稲沢市稲沢町前田 365

TEL：0587(23)2400 FAX：0587(21)2844

e-mail：toshokan@nagoya-bunri.ac.jp